

再評価【番号25】

臨港道路 沖洲(外)線
徳島小松島港 沖洲地区

1. 事業概要

マリンピア沖洲および四国横断
自動車道へのアクセス機能向上

臨港道路 沖洲(外)線
L=1,410m

観光旅客船バース
耐震岸壁(-7.5m)

複合一貫輸送
ターミナル
耐震岸壁(-8.5m)

工業用地
(約180事業所)

人工海浜

(仮称)徳島東IC

小型船だまり

吉野川

四国横断自動車道

(都)元町沖洲線

(都)東吉野町北沖洲線



2. 事業の進捗状況①

H25現在の状況

事業進捗率 85%

用地取得率 100%

暫定2車線供用

L=540m

平成22年3月

暫定2車線供用

L=360m

平成20年10月

○取合道路の拡幅

事業による交通量増に対応

事業費の追加 約5億円

○残り区間と暫定区間

NEXCO西日本の横断道工事の
スケジュールに合わせて施工
し、平成31年度完了を目指す。

H25完了→H31完了

2. 事業の進捗状況②【短期的な投資効果】



3. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

- ・ 走行時間短縮便益
 - ・ 走行経費減少便益
 - ・ 交通事故減少便益
- 計 **65.9億円**
(現在価値化後)



その他の便益

計 **14.3億円**
(現在価値化後)

環境

- ・ 大気汚染や温暖化防止効果 1.8億円
- ・ 騒音低減効果 12.5億円

※費用C=55.2億円 (現在価値化後)

$$B/C = 1.2$$

(参考) その他の便益を含むB/C=1.5

貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

- 災害時の復旧・支援の強化
⇒ 災害時活動拠点をつなぐアクセス道
- 支援受け入れ機能強化(港湾BCP)
⇒ 耐震強化岸壁の機能強化
- 避難ルートの強化
⇒ 津波避難路としての機能
- 緊急輸送道路のネットワーク強化
⇒ リダンダンシーの確保

産業振興

- 物流の効率化
⇒ 水深-8.5m岸壁の機能強化
- 観光客の利便性向上
⇒ 水深-7.5m岸壁の機能強化

4. 臨港道路整備による多様な効果①【防災・減災】

【防災・減災】災害に強い輸送ネットワークの構築

①災害時の復旧・支援の強化

- ・災害時の活動拠点や拠点病院をつなぐアクセス道を形成する

※「活動拠点(候補値)」: マリンピア沖洲, 吉野川運動広場 「災害拠点病院」: 徳島市民病院

②支援受け入れ機能強化(港湾BCP)

- ・耐震強化岸壁を利用した支援物資受け入れ拠点としての機能強化、緊急輸送体制の強化

③避難ルートの強化

- ・設計津波高より標高の高い道路ができることによる**避難ルート**の確保

④緊急輸送道路のネットワーク強化

- ・緊急輸送道路へのアクセスとして複数路線の確保（**リダンダンシーの確保**）

※「緊急輸送道路」:一般国道11号や四国横断自動車道 等



沖洲（外）地区へのアクセス性が向上することにより防災機能強化

4. 臨港道路整備による多様な効果②【産業振興】

【産業振興】地域経済の活性化

①物流の効率化

- ・マリンプア沖洲で施工中の**複合一貫輸送ターミナル**には、船舶の大型化も考慮した計画がなされている。

➡ 徳島東ICへのアクセス道を形成し高速道路ネットワークの形成に寄与する

②観光客の利便性向上

- ・マリンプア沖洲で施工中の－7.5m岸壁には、**観光旅客船等**の寄港も視野に入れた計画がされている。

➡ 県内観光地への海の玄関口としての機能形成に寄与する



他事業との一体的整備により
観光・物流の玄関口としての役割

5. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

- ・ 走行時間短縮便益
 - ・ 走行経費減少便益
 - ・ 交通事故減少便益
- 計 **65.9億円**
(現在価値化後)



その他の便益

計 **14.3億円**
(現在価値化後)

環境

- ・ 大気汚染や温暖化防止効果 1.8億円
- ・ 騒音低減効果 12.5億円

※費用C=55.2億円 (現在価値化後)

$$B/C = 1.2$$

(参考) その他の便益を含むB/C=1.5

貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

- 災害時の復旧・支援の強化
⇒ 災害時活動拠点をつなぐアクセス道
- 支援受け入れ機能強化(港湾BCP)
⇒ 耐震強化岸壁の機能強化
- 避難ルートの強化
⇒ 津波避難路としての機能
- 緊急輸送道路のネットワーク強化
⇒ リダンダンシーの確保

産業振興

- 物流の効率化
⇒ 水深-8.5m岸壁の機能強化
- 観光客の利便性向上
⇒ 水深-7.5m岸壁の機能強化

■ 今後の対応方針(案)

事業継続